

平成 25 年 12 月 13 日

IOSCO による取引行動に係る取引手数料モデルの影響に関する報告書の公表

証券監督者国際機構（IOSCO）は、本日、「取引手数料モデルとその取引行動への影響」と題する報告書（以下、「本報告書」という。）を公表した。本報告書は、各国における取引手数料及び取引手数料モデルとそれらがどのように取引行動に影響を及ぼすかに関する包括的な概要を提示している。

近年、多くの証券当局は、取引市場間の競争を促進する規制の枠組みを導入した。また、新しい取引市場の設置コストを低減し、新しい流動性プールへのアクセスを提供する技術進歩も、取引市場間の競争を促す重要な役割を果たした。

現在、取引は、同一の商品を取引し、競合している複数の取引市場（有価証券が重複上場されている国内の取引市場間及び国境を跨ぐ取引市場間の両方を含む）に分断されている。競争は、投資家及び仲介者に対し、取引場所や取引方法について、より多くの選択肢を提供した。これらの市場は、取引手数料構造を含む、取引システムや技術、市場モデルや取引手数料を用いて競争している。

IOSCO は、現在使用されている手数料モデル及び各規制当局がこのような競争環境下においてそれらを規制するために取っているアプローチに関する理解を深めるため、各国の規制当局及び取引市場に対して簡単な質問調査を行った。

この質問調査には、下記の質問が含まれる。

- 現在利用されている手数料モデルの種類
- 手数料及び手数料モデルが規制される方法
- 取引手数料モデルの潜在的及び実際の影響を測るために行われた作業

この調査に対して 21 のメンバー国が回答した。およそ 70 の取引市場が、自身で回答したか、規制当局が提出した回答に彼らの見解が反映された。

本報告書は、この調査を通じて得られた回答の概要を提供することを意図している。その概要において、本報告書は、以下の事項に関する主要な調査結果を明らかにしている。

- ・ **市場環境**（各国における競争状況及び規制環境を含む）
- ・ **取引手数料モデル及び取引手数料の種類**
- ・ **取引手数料モデル及び取引手数料のインセンティブと効果**（その受益者を含む）

収集されたデータは、取引手数料又は取引手数料モデルがその取引行動に及ぼす影響及び効果について、IOSCO が断定的な結論を得る十分な根拠を提示しなかった。しかしながら、本作業は、グローバルに使用されている手数料モデルの構造、各規制当局の関与の程度、及び規制当局が監督を行う際に用いることが多い基準に関する理解を深めるために有用であった。

IOSCO は、今後も取引手数料モデル及び取引手数料のモニタリングを継続する。更なる調査を要する課題が生じた場合、IOSCO は当該課題に関する更なる作業を検討する。

(以上)